

応用力学運営委員会
力学的感性と教育 小委員会
第8回議事録（案）

記録 山田

- A. 日 時 2009年 3月17日（火） 11:00～13:00
B. 場 所 日本大学理工学部 駿河台校舎 5号館 523会議室
C. 出席者：新宮清志，山田耕司，近藤典夫，朝山秀一，安井雅明，佐藤淳，小嶋英治，松野浩一（オブザーバー），片追幹男（オブザーバー）（以上、9名）
欠席者：朝川剛，西村督，西谷章，堤和敏，山崎光悦，辻聖晃，高畠秀雄，諸岡繁洋，（以上、8名）

D. 提出資料

- ・資料08-12：力学的感性と教育小委員会 第7回議事録（案）（近藤）
- ・資料08-13：小委員会の目標について（新宮）

E. 審議及び報告事項

1) 前回議事録確認（近藤）

了承された。

2) 今後の2年間の活動（具体案の意見聴取）

- ・主査：書籍の出版までいけると良い、研究集会で終わる可能性もあり。
- ・山田PD案（資料08-13）の説明があった。
対象者（設計者、学生）を相手にPDの魅力をどうするか。
→デザイナーをパネラーとする
例：内藤廣（東大・社会基盤）：構造の美しさを語ってもらう
→実現事例の紹介
佐々木睦郎：ぐりんぐりん → 施工者による施工方法に関するコメントも
力学の視点を持った構造美を実現している方を呼ぶ→佐藤淳、稻山正弘、山辺豊彦、
陶器浩一

→教育という視点からの人材

岡田章（日大）、斎藤公男（日大）=自然の形状と力学

- ・アーキニアリング：デザインから入る耐震補強などデザインと構造の融合を事例説明が必要では。
- ・数学ではなく力学で問題を解決しているが、その力学的な感性を人に説明するのは難しい。
- ・教育という観点では、実建物の実現に用いられた数学を事例で示す。
- ・建物実現のための落とし所を見つける力学的感性：施工性、コスト、力学のバランスを取りまとめる力（佐藤）、経験（計算結果の蓄積）により判断ができるようになる。
- ・研究で開発している技術を意匠設計者や実務家からレビューしていただく。
- ・「何をするのか」

感性と教育問題の双方をターゲットにするのは難しい

研究協議会等：基調講演(実務) → 個別要素（委員会としての成果）→ 実務での適用事例

書籍のイメージがわからないので、基調講演を中心に、個々の内容をリンクさせる（個々の内容実建物の設計・施工、教育、力学的感性）

書籍：実例とその要素技術（一般向け解説）+各技術要素（一般向け技術解説）

詳細は参考文献にまとめる

・一つのテーマを決め、書籍に向けて話題などを集約する。→失敗したらシンポジウム

・読みたい書籍とは？：数学と力学イメージ、最先端理論と建築構造のつながり、など式を追える書物が少ないので、そのような本でもよい
一部は外部に執筆依頼

主査意向：力学的感性を中心として、少しだけ教育に触れる書籍
幹事で目次案等をまとめて、主査に送付する

執筆：全員+委員外

・2年後の出版に関するスケジュール（2011.3までに出版→5 or 6月にシンポジウム）

・「自然」は「自然科学」も含めると幅が広くなるのでは？

F. その他

・次回、佐藤淳氏に（熊本県葦北郡の）新作説明をお願いする。

・次回、書籍について審議する。

・次回委員会：4月下旬～5月中旬に行う。

以上